

## 国際化学肥料ニュース（2014年5月）

### 肥料業界の2014年5月動態

\* カナダ Canpotex 社はバングラデシュ国営農業開発公社（BADC）との間に2014～2015年度に標準塩化加里 12万トンの確定量及び 6万トンの選択量を供給することについて契約した。推定価格は CFR バングラデシュ 330～335 ドル/トンである。現在、東南アジア向けの塩化加里スポット CFR 価格は 350 ドル/トンである。

\* インド政府化学肥料省は国内尿素メーカーへの補助金増額について財務省と交渉することに入った。

2014～2015年度の政府予算に化学肥料に計 6597 億ルピー（約 109 億ドル）の補助金を支出することを決定した。尿素の補助金が 2812 億ルピー、そのうち国内尿素メーカーの補助金 1317 億ルピーである。尿素メーカーへの補助金はほとんど 4月中～下旬に尿素メーカーに支払った。

しかし、インド尿素メーカーが生産コストの上昇を理由に補助金の増額を要求してきた。昨年度も同様な状況が起き、化学肥料省が銀行に尿素メーカーへの貸金を増やし、その金利の一部を国が補てんする形で対応した。

現行規定により、尿素に対する補助金が国産品では 5360 ルピー/トン（約 90 ドル/トン）である。これに対して、インド農業委員会は補助金の支給方法について、肥料メーカーや輸入商社にではなく、農家に直接補助する案を再度提出した。これにより農家は尿素等指定される肥料ではなく、自由に肥料を選択して購入することができる。

現在インドの尿素生産量が約 2200 万トン、需要量が 3000 万トン、不足の 800 万トンは輸入に依存する。

\* ブラジル化学肥料協会（ANDA）が公表した統計データによれば、2013年にブラジルが 2161.9 万トンの化学肥料を輸入し、前年度より 10.6% 増加した。国内需要量の 70% が輸入に依存した。化学肥料の輸入金額 88.85 億ドル、前年度より 3.51% 増加した。

ブラジルの国内化学肥料産業が発達していないため、輸入に対する依存度が 70% を超えた。特に加里肥料に対する依存度が 90% 以上である。ブラジル化学肥料協会の予測では、そのまま行けば、2018 年に化学肥料の輸入金額が 130 億ドルに膨らむ。しかし、国内化学肥料の新規建設が順調にいけば、2018 年に化学肥料輸入量が 900 万トンを削減し、金額では 45 億ドルの削減ができる。

現在、ヴァーレ社は Sergipe 州の Cainalita 加里鉱山の開発プロジェクトを推進中で、完成すれば、年間 120 万トン塩化加里の生産量が得られる。このプロジェクトだ

けで今後 30 年年間に 170 億ドルの塩化加里輸入を削減することができる。しかし、鉱脈と精製工場所在地がまたがる Capela 市と Carmopolis 市が商品流通税（ICMS）の徴収権に争いが発生し、加里鉱山の開発が大幅に遅れた。

ほかにヴァーレ社、MbAC 化学肥料社、Galvani 社はブラジル国内にりん酸の開発プロジェクトを実施している。Galvani 社の Minas Gerais 州と Ceara 州に開発中のりん酸プロジェクトが完成すれば、年間湿法りん酸 300 万トンを生産し、輸入りん酸約 50% を削減できる。

- \* 中東湾岸地域はすでに世界の化学肥料生産拠点になった。湾岸石油化学・化学協会（GPCA）は先日開催された第 4 回湾岸地域化学肥料フォーラムに於いて、2013 年湾岸協力会議（GCC）参加国のアンモニア合成量が世界貿易量の 16%、尿素がさらに高く、世界貿易量の 30% を占めるようになったと発表した。

GPCA 最新のデータによれば、2013 年末現在、GCC 諸国のアンモニア生産能力が 1190 万トン（前年度より 5% 増）、尿素生産能力が 1620 万トン（前年度より 6% 増）。また、湾岸地域に豊富な天然ガス、硫黄とりん鉱石があり、2012 年のりん安等りん酸塩の生産能力が 2008 年より 13.7% 増加した。

国際肥料工業会（IFA）の予測では 2016 年までに世界の化学肥料生産量の年率増加速度が約 1.8% であるが、GPCA は湾岸地域の化学肥料生産量が年間 10% の増加を保つと見込んでいる。GPCA 事務局長の Abudulwahab Al Sadoun 氏は、2016 年に湾岸地域の化学肥料生産量が 2011 年の 2100 万トンから 3200 万トンに増加し、平均年間増加率が 7.5% に達し、尿素の輸出量が世界貿易量の 36%、りん安の輸出量が世界貿易量の 24% になるだろうと述べた。

カタールではすでに世界最大のアンモニア・尿素工場を完成した。アラブ首長国では 34 個の化学肥料プロジェクトを企画中で、アブダビ Ruwais 尿素工場が生産能力の拡張を計画している。2016 年までに GCC 諸国は化学肥料分野にさらに 180～200 億ドルを投資し、2018 年には湾岸地域の化学肥料生産量が 4640 万トンになると推測される。

- \* 尿素、特に大粒尿素の国際価格が急落した。5 月中旬、中東湾岸の大粒尿素 FOB 価格が 280 ドル／トンに下落し、初めて小粒尿素より安い値段で売り出された。長くヨーロッパ市場に供給してきたエジプト産尿素は値段が高く、2 週間連続入札者がいなかつ

たため、販売できなかった。逆に廉価のアルジェリア産大粒尿素が競争相手となり、ヨーロッパ市場にシェアを拡大した。また、トルコとイタリアにはイランの大粒尿素と中国の小粒尿素が進出して、伝統のヨーロッパ尿素市場に新風を吹き込む。

5月中旬現在、ロシア産尿素のFOB価格が290～295ドル／トンで、現時点の国際基準価格となっている。また、一部の国際貿易商はすでに中国尿素を売り出した。納品は7月以降の中国非需要期の輸出関税期間に限定して、FOB価格が240ドル／トンを提示した貿易商さえあった。

尿素の国際市場予測では、6～8月は供給量が需要量を超え、尿素価格が低迷するが、8～9月は市場の需給関係が次第に均衡して、値段が安定するだろうとみている。

\* りん安の価格低迷が続いている。IFA年会の開催前に需要家が買い控えの態度が変わっていない。現在、大需要家のブラジルなど南米諸国のりん安（DAPとMAP）CFR価格が460ドル／トン前後に落ち着き、アメリカフロリダ州Tampa港からブラジルに輸出するDAPのFOB価格がすでに440～442ドル／トンに下落した。一方、インドに輸出した中国産DAPのCFR価格が440～450ドル／トンである。

りん安の価格低下により、アメリカのDAPとMAPの4月輸出量が3月より16.1%増の15.3万トンであった。しかし、昨年同期より10.7%減、ブラジルの買い控えが主な原因である。

\* ブラジル税関の統計データによれば、塩化加里の国際価格の低下によりブラジル1～3月の加里肥料輸入量が昨年同期より69%増の203.6万トンであった。その輸入元は、ロシアから208%増の94.5万トン、カナダから76%増の62.85万トン、チリSQMから35%増の19万トン、ドイツK+Sから36%減の15.5万トン、イスラエルICLから24%減の11.74万トンであった。

四月の塩化加里輸入量も92万トンであり、1～4月の輸入量が295.5万トンに達した。

\* 中国国家統計局から公表されたデータによれば、2014年1～4月中国の化学肥料生産量が史上初めて減少したことが判明された。1～4月の化学肥料生産量（純成分換算、以下同）が昨年同期より1.19%減の2206.39万トン、特に4月生産量の減少が明白で、4.86%減の577.16万トンであった。

具体的なデータは、1～4月窒素肥料生産量は1.04%減の1562.82万トン、4月生産量が4.94%減の397.53万トン。1～4月りん酸系肥料生産量は0.82%減の506.36万トン、4月生産量が5.86%減の123.47万トン。1～4月加里肥料生産量は4.54%減の137.56万トン、4月生産量が2.72%減の55.74万トンであった。

生産量減少の原因は2つである。一つは化学肥料の生産能力が急速に増加したが、需要量が増えず、輸出も国際市場価格の下落と輸出関税により低迷し、国内在庫が増えたことである。もう一つは中国経済の見通しが不透明で、国内化学肥料の価格が下落し続けて、企業の利益が大幅減少し、多数の赤字企業が出た。2013年、中国の化学肥料業界の純利益が前年度より19.2%減の385億人民元（約62億ドル）であった。特に窒素化学肥料業界の純利益が51.4%減の66.4億ドル（約10.7億ドル）、営業利益率が2.31%しかなかった。今年がさらに悪化する見通しである。

5月21日現在、中国の窒素化学肥料の設備稼働率が70%強、6月には一部の尿素工場が稼働停止に加わり、稼働率が60%台に下がるだろうと中国窒素肥料工業協会はこう推測する。

一方、中国りん酸肥料工業協会もりん酸系化学肥料設備の稼働率の低下を認め、6月までは低迷状況が続けるだろう。現在ほとんどのりん酸系化学肥料メーカーが損益トントンの状態で運営していると認めた。

加里肥料については、1～4月の生産量減少は悪天候によるもので、6月以降の夏秋期に回復する見通しである。但し、ロシアやカナダとの今年上半期塩化加里輸入契約により輸入価格が大幅に安くなることを受け、中国の加里肥料メーカーの利益が激減するだろうと予想される。

## 大手各社の営業業績

- \* ノルウェーYara社は2014年1～3月の業績を公表した。化学肥料販売量640万トン、前年同期より21%増であった。しかし、化学肥料の価格下落を受け、尿素価格が13%、硝安系肥料価格が12%、化成肥料価格が10%値下げした。そのため、営業利益が逆に20%減少した。
- \* チリのリチウムと加里メーカーRockwood Holdings社は2014年第1四半期の業績を公表した。加里肥料売上高420万ドル、前年同期の1210万ドルより激減した。但し、リチウム事業の業績が好調で、全社の売上高3.55億ドル、純利益2200万ドルであった。

## 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* メキシコ連邦電力社 (CFE) は、メキシコ北西部の Sinaloa 州に天然ガスパイプを建設し、Topolobampo 港に新規建設のアンモニア・尿素工場に供給する計画を打ち上げた。  
　　イスの PROMAN 社とメキシコの GPO 社が合弁で 10 億ドルを投資し、当該アンモニア・尿素工場を建設する。
- \* 5 月 4 日、中国塩湖集団は中国企業グループを代表してエチオピア政府鉱産省との間にエチオピア Afar 州 Danakil 砂漠にある塩湖の加里資源開発について覚書を締結した。  
　　覚書の内容は、1. エチオピア政府が法律と政策の面で保障するとともに関係部門と地方政府に協力を要請する。2. 中国企業は鹹水の採掘と精製技術開発、設備の設計と建設案の提示、資金の提供である。但し、当該覚書は開発意向を表明するもので、具体的な開発に関する契約ではない。  
　　エチオピア Afar 州にすでに数社の外国資本が進出して、加里資源の開発を進んでいる。
- \* 5 月 3 日、ブラジルの Petrobras 社は新たにアンモニア生産ラインの建設を開始した。  
　　当該新規アンモニア生産ラインの生産能力は 51.9 万トン／年、総投資額 8.75 億ドル。  
　　現在、Petrobras 社は 3 本のアンモニア生産ラインが稼働中で、合計生産能力が 140 万トン／年であるが、国内アンモニア需要量の 45% しか満足しなかった。  
　　2013 年、ブラジルは尿素 350 万トン、硫安 180 万トン、硝安 130 万トンを輸入した。
- \* オーストラリアの Highfield 社はスペイン北部にある Javier 加里鉱山の初期探鉱報告を公表した。加里鉱石埋蔵量 1～2.68 億トンと推定される。  
　　当該加里鉱山の初期探鉱に 3.079 億ドルを投じた。2015 年にプロジェクトを確定し、2016 年から採掘して、86 万トンの塩化加里／年の採掘・精製工場を建設し、20 年間生産すると計画する。
- \* イギリスの Sirius Minerals 社は 2015 年第 1 四半期からイギリスの Youk 郡にある York 加里プロジェクトの建設を始めると発表した。
- \* 5 月 26 日、トルクメニスタン政府は、Balkan 州 Garabogaz 市に尿素工場を建設すると発表した。生産能力 115.5 万トン／年、設計と施工はリトアニアの Conmaster 社と Sweco Lietuva 社から構成する JV が担当する。

## その他

- \* ベラルーシ大統領はロシア Uralkali 社の社長と会談し、Uralkali 社が BPC に復帰することに大きく進展したと発表した。大統領は Uralkali 社がベラルーシの Belarukali 社が再び協力することにより両社がさらに収益を上げることができると述べた。
 

一方、ベラルーシはカンボジアとの間に長期の塩化カリ肥料供給契約を締結したと発表した。
- \* ウクライナの OPZ 社は 4 月 28 日から Yuzhny にある尿素工場の稼働を停止した。理由は尿素の国際価格低下と原料天然ガスの価格高騰である。当該尿素工場は 5 月末まで停止し、6 月から再稼働になる可能性がある。その稼働停止により大粒尿素の生産量が約 7 万トン減少すると予測される。
- \* AB Achema 社はリトアニア Ionava 市にあるアンモニア工場を 5 月末から 1 ヶ月以上稼働停止にする。当該工場のアンモニア生産能力は 50 万トン／年である。稼働停止により Achema 社の UAN (尿素硝安液肥料) の生産量と輸出量が大幅減少する。
- \* 5 月 29 日、アメリカテキサス州 Athens 市にある化学肥料工場に火災が発生した。硝安倉庫等の施設が全焼したが、死傷者がおなかつた。
- \* 5 月末、アルジェリア Sorfert 尿素工場の No.2 アンモニア合成ラインが故障し、稼働を停止し、緊急点検に入った。そのため、6 月の尿素生産量が約 25% 減少する見通しである。当該尿素工場は OCI と Sonatrach の合弁企業で、OCI が管理している。5 月 OCI が 2.85 万トン尿素を輸出したが、5~6 千トンの受注が残っている。
- \* 中国政府農業省の総経済師錢克明氏は「2014 年第 3 回中国国際農業フォーラム」に中国農業の環境汚染問題について下記の発言を行った。
 

中国の農地環境が大きな問題となっている。毎年 1 億トンの化学肥料と 130 万トンの農薬が農地に施用され、平均で 2.5kg の食糧生産には 1kg の化学肥料が使用される計算となり、国際安全ラインの 2 倍を超えた。また、農薬の使用量も国際平均レベルの 2.5 倍である。施用不当で、化学肥料と農薬の効果が国際レベルの半分しかなかつた。化学肥料と農薬の過剰使用により、中国農地の重金属、有機農薬汚染問題が逼迫の状態になっている。

2013 年中国政府環境省から公表した調査報告によれば、3.6 万ヘクタールの農地が重金属に汚染され、毎年生産された 1200 万トンの食糧が重金属濃度が国に定めた基準値を超えた。農地の重金属汚染、農薬汚染がすでに国民の健康を脅かしている。